

## 第75回日本食道学会学術集会 の準備状況のお知らせ



第75回日本食道学会学術集会 会長  
**岩切 勝彦**  
 (日本医科大学 消化器内科学)

第75回日本食道学会は、令和3(2021)年9月23日(木)、24日(金)の両日、ヒルトン東京お台場で開催させていただきます。歴史と伝統のある本学術集会の会長を務める機会をいただきましたことを大変光栄に存じますとともに、責任の重さに身の引き締まる思いであります。理事長の土岐祐一郎先生をはじめとする食道学会の皆様に心より感謝申し上げます。

第75回学術集会は4年に1回の非外科系の会長である私が担当をさせていただきます。私は一貫してGERDの診断・病態・治療を

中心に、食道良性疾患に関する研究を行ってまいりました。本会では本学会の中心的な検討疾患である食道癌に加え、近年増加傾向にある食道良性疾患の基礎から最先端までを学べる学術集会にしたいと考えております。本会のテーマとしましては、多診療科、多職種の方々と一丸となり、食道学が更に発展することを期待して「チームで奏でる食道学の未来」と致しました。

本会では食道悪性・良性疾患の食道学会ならではの熱い論議を期待し、4つの講演会場を使用し、十分な時間、スペースを取り、多くの先生に発表していただきたいとの考えのもと、準備を進めております。コロナ渦の中、オンライン開催により発表の機会がなくなり、会場での発表の機会が欲しいとする意見もいただいております。コロナ渦の状況ではありますが655題の演題応募をいただきました。未だコロナ収束の見えない状況でありますが、5月末からは本格的にワクチン接種も開始され、通常開催に近い形での開催に向けて準備を進めています。同時にコロナのあらゆる状況を想定して、オンライン、ハイブリッドでの開催の可能性も一つの選択肢として考えております。最終的には7月初旬の状況を見て、土岐理事長、理事の先生方と相談し開催形式を決定する予定です。会員の皆様には大変なご心配をおかけいたしますが、ご高配を賜わりますようお願い申し上げます。

最後になりますが、1日も早いコロナ収束と皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

### お知らせ

## 2021年度 教育セミナーのお知らせ

教育委員会委員長 市立吹田市民病院 矢野 雅彦

新型コロナウィルス肺炎拡大の影響により第75回日本食道学会学術集会の会期が延期されました。

これに伴い、教育セミナーも同時開催については見送り、開催形式・スケジュールは下記のとおりといたします。

### 1. 講師・講演テーマ

	氏名	演題名	所属
1	河内 洋 先生	特殊型食道癌の病理診断	がん研究会有明病院 病理部
2	井上晴洋 先生	アカラシア	昭和大学江東豊洲病院 消化器センター
3	亀井 尚 先生	胸腔鏡下食道癌サルベージ手術の適応とコツ	東北大学 消化器外科
4	竹内裕也 先生	食道胃接合部癌に対する切除再建術式	浜松医科 外科学第二講座
5	神宮啓一 先生	食道癌放射線治療における現在の成績と今後	東北大学 放射線腫瘍学分野
6	浜本康夫 先生	進行・再発食道扁平上皮がんに対する薬物療法について	慶應義塾大学 内科(消化器)

### 2. 開催形式

- ◎ webセミナー形式 オンデマンド動画配信
- ◎ 申込受付：事前申込 2021年6月10日～7月5日  
追加申込 未定
- ◎ 配信期間：7月中旬から3か月間
- ◎ 申込者にパスワードを付与。学会ホームページから視聴ページに入って視聴。

事前申込みいただいた先生には、テキストと受講証をお送りします（7月上旬頃から順次発送）。

本年もしくは次年度以降の認定医・専門医の申請に用いることが可能です。本年度の新規申請・更新に受講実績として利用しようと計画している方は、忘れずに事前申し込みをしてください。

## 各種委員会・部会報告

### [会則委員会]

#### 定款および細則変更について

委員長 神宮 啓一

(東北大学大学院医学系研究科 放射線腫瘍学)

令和元年度および2年度に会則委員会にて審査の後、開催された理事会において、以下の細則の変更案が承認されました。

- 1.「食道外科専門医制度規則 施行細則第10条」の変更について  
食道外科専門医試験において、書類審査および手術ビデオ審査の一次試験を合格するも二次試験の筆記と口頭試問で不合格となられた先生への、2年間の一次試験免除の規定を追加する。
- 2.「食道外科専門医制度規則 施設認定施行細則」の変更について  
修練責任者が不在になった認定施設の扱いについて
  - ① 認定施設に食道外科専門医が不在(外科系食道科認定医在籍)になった場合  
⇒ 認定医を修練責任者にして「準認定施設」へ変更する。
  - ② 認定施設に食道外科専門医および外科系食道科認定医が不在になった場合  
⇒ 認定を取り消す。
  - ③ ただし、1年程度の修練責任者の不在期間は許容する。
  - ④ 修練責任者不在期間中の修練生の専門医申請について⇒認める。
 以上を「認定施設および準認定施設の変更または取消」として第4章第12条として新設
- 3.「食道科認定医制度規則 施行細則」の変更について  
専門医では「食道外科専門医審査のための業績基準」参照という文言があるのに、認定医の方ではその文言がなかったため、食道外科専門医制度 施行細則との整合性のため「この業績は「専門医制度関連審査のための業績基準」で認められた医学雑誌、または学術集会に発表されたものでなければならない。」と変更。
4. 食道外科名譽指導医の資格と認定について  
食道外科専門医制度規則 施行細則 第7章第21条として新設。
5. 送付方法に係る定款施行細則第3号の変更について  
役員選挙や評議員選挙の際に届出票が「書留郵便」でないため受付不可とし、書類返送しなければならない。「書留郵便等」に変更する。配達記録が残る方法であれば可とする。
6. 理事長の選定および在任期間に係る定款施行細則第3号の変更について  
これまで「理事長は原則としてすべての理事ならびに理事候補者の自薦による。」となっていたが、理事長は理事であることが大前提であることから、「理事長は原則としてすべての理事の自薦もしくは他薦による。」に変更する。  
また、理事長の在任期間について「理事長としての在任期間は、通算4年を超えてはならない。ただし、理事長として職務執行中の者が理事の任期中である場合には、その在任期間は最長5年まで伸長される。理事長の候補者が別に無かつた場合、理事長継続について理事会で承認を得る。」となっていたことから、選任されるタイミングにより理事長在任期間の長短が生じる可能性があった。そのため「理事長としての在任期間は、通算4事業年度が終了した後の総会終結するまでとする。」と変更する。
7. 専門科の分類について(専門科区分に係る定款施行細則)  
これまで「外科、内科、放射線科およびその他の臨床科、基礎系」と本学会の専門科区分がされていたが、臨床系の病理医はどこに属するか不明であったので、これを明確にする。「外科、内科、放射線科およびその他の臨床科、病理および基礎系」とする。

### [選挙管理委員会]

#### 2021年度 役員選挙(次期副会長・理事・監事)について

委員長 岡住 慎一(東邦大学佐倉病院 外科)

本年の日本食道学会役員改選につきましてご連絡申し上げます。次期副会長、理事、監事が選定されます。次期副会長(第78回会長)は外科となります(役員・評議員選任規定第7条-2)。理事は、評議員でありEsophagusに最近2年以内に最低1編以上投稿していることを要します。

選挙日程および改選数は以下の通りです。

##### 【役員選挙日程】

告示日	: 2021年4月21日(水)
立候補受付期間	: 2021年4月26日(月)から5月19日(水) 17時必着
公示日	: 2021年5月26日(水)
役員選挙	: 2021年7月13日(火)

##### 【次期副会長選挙】

外科

##### 【理事選挙】

2021年度改選理事

外科2名、内科1名、放射線科1名、基礎系1名

##### 【監事選挙】

2021年度改選監事

内科2名、外科2名

### [会誌編集委員会]

#### 委員会報告

委員長 松原 久裕

(千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学)

本学会の英文機関誌Esophagus誌は前回のNews Letterでお知らせしましたが、たいへん嬉しいことに2019年のImpact Factorは3.130まで上昇し、食道分野においてtop journalとなりました。会員皆様のご支援、ご尽力にこころより感謝申し上げます。

2020年の投稿状況ですが、322編の新規投稿がありました。2019年が181編であったのでほぼ倍近い論文の投稿がありました。IF上昇、食道分野においてtop journalになったことにより、より注目されるようになり、投稿意欲が増進した結果だと思います。内訳ですが、review articleが27編、原著論文が272編でした。acceptance rateは全体で30.3%、原著論文だけ見ると31.0%となっています。地域別に見た著者の分布ですが、日本が142編と44.1%を占めています。この割合は2019年とほぼ変わっておりません。中国からの増加は顕著であり2019年の40編から91編と倍以上に増加しております。しかしながら、内容が十分でないものが多く、acceptance rateは14.8%にとどまっています。今後、質の高い論文が投稿されるようになるとたいへんな脅威となります。日本からの食道学の情報発信のため、さらに皆様からのすばらしい研究成果をEsophagusへの投稿をお願い申し上げます。また、IFが低迷していた頃は特集記事は良いのですが、原著論文がもう1つで、IF上昇に寄与できませんでした。IFが上昇した近年は食道学に関するすばらしい論文が掲載されておりますので、関連する論文執筆の際には是非とも、積極的に引用して頂くことをお願い致します。

世界をリードする食道学の牽引役としての地位を確固たるものにしていきたいと願っております。今後ともご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

##### 【NCD部会】

#### NCD部会報告

部会長 渡邊 雅之(がん研有明病院 消化器外科)

#### 「2021年度NCD研究課題」について

本年度も、日本消化器外科学会による<2021年度NCDデータを利用した消化器外科領域新規研究課題>の公募>が行われ、日本食道学会において8課題の応募がありました。理事会において審査した結果、下記の2課題を採択し、日本食道学会承認課題として日本消化器外科学会に提出しました。日本消化器外科学会における審査の結果、2課題とも承認されました。

①胸腔鏡下食道切除術における術中体位が術後合併症に与える影響  
渡邊 雅之(がん研究会有明病院 消化器外科)

②胸部食道切除再建術後の縫合不全のリスク因子解析  
竹内 裕也 先生(浜松医科大学 外科学第二講座)

#### 「NCDを利用した食道癌全国登録」について

食道癌全国登録は2019年よりNCDに完全移行しました。2013年後ろ向き登録の結果は、PDFとして登録施設代表者に配信するとともに、Esophagus誌に投稿・掲載されました(Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2013: Esophagus 2021; 18: 1-24)。論文ご執筆の際には、参考文献としてご引用いただければ幸いに存じます。2014年後ろ向き登録結果の解析は現在進行中です。さて、2015年症例の後ろ向き登録が4月8日より登録開始となりました。登録対象は2015年1月1日から12月31日に施設を初診したすべての食道癌症例です。5年間の経過観察期間内に行なった手術、内視鏡治療、化学療法、放射線治療をすべて登録して下さい。非外科系の先生方におかれましても、内視鏡治療・化学療法・放射線治療のご登録をお願い申し上げます。登録締め切りは6月30日を予定しています。今後とも食道癌全国登録にご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 〔食道科認定医認定部会〕

### 食道科認定医認定部会より

部会長 竹内 裕也(浜松医科大学 外科学第二講座)

日本食道学会では、食道科認定医を「食道の解剖生理の研究ならびに食道疾患の診療に必要な知識を備え、その研究および診療を担当する能力を有する医師であることを本学会が公認するもの」と定めています。食道外科専門医とは違い、外科以外の診療科や基礎の先生方もその資格を有することができます。

食道科認定医の新規認定申請、更新認定申請には、定められた研究業績(論文、学会発表)と研修実績(学会出席、セミナー受講)による書類審査が必要となります。令和2年度は67名の新規申請があり、うち65名が食道科認定医として認定されました。また104名が食道科認定医の更新申請をされ、102名更新が認められています。この結果、食道科認定医は令和3年1月現在 1,008名(外科系 898名、内科系 86名、放射線科 18名、基礎系その他 6名)となりました。

専門的な知識を必要とする食道疾患の診療や研究を行うにあたり、ぜひ食道科認定医を取得していただき、国民の健康と福祉、そして日本食道学会の発展に貢献していただければありがたく存じます。令和3年度の申請につきましては学会ホームページをご参照ください。

## 〔食道外科専門医認定部会〕

### 食道外科専門医認定試験

部会長 安田 卓司

(近畿大学医学部 外科学教室上部消化管部門)

Covid-19/パンデミックの長いトンネルの出口が見えない日々が続いているが、今年も食道外科専門医認定試験は実施する予定で準備を進めています。今年の事前アンケートでは32名の先生方が受験を検討されているということで、その人数であれば例年通りに行えると考えています。申請は今年も6月1日から8月2日まで、試験は11月27日(土)に国立がん研究センター中央病院にて実施する予定です。既に学会ホームページに新規申請に関するお知らせは掲載されていますのでご確認頂ければと思います。

では、申請にあたり毎年指摘される注意点について再度周知させていただきます。  
 ◎手術記録は電子カルテ内の公式記録を一切の追記・修正なしで全頁提出してください。  
 ◎領域別の術者名の記載がない場合は、術者一覧表に別途記載して提出してください。  
 ◎郭清リンパ節No.の記載がない場合は、郭清リンパ節に関する病理所見を添付して下さい。  
 ◎手術ビデオは、術野が確認でき、上縦隔郭清を含む定型的な縦隔郭清手技を含むビデオを提出してください。Salvage手術で非定型的な郭清手技を行った症例や郭清を一部省略した症例は評価できません。頸部から上縦隔郭清を行う場合は、同一症例で同一術者が行った頸部郭清のビデオを添付してください。  
 ◎手術ビデオでは基本手技の正確性、適格性やトラブル時の適切な対応と一定レベルの郭清度を主に評価します。高難度技術を評価するのではないことはご留意頂ければと思います。

◎接合部癌症例は、下縦隔郭清が行われ、かつ吻合部が少なくとも胸腔内に位置することが手術記録または切除標本写真などから確認できる症例に限ります。

特に手術記録に関しては部会委員が全例確認します。例年資料不十分で追加資料または追加症例の提出をお願いする場合が少なく、事務局にとっても大変な作業になっています。十分確認の上で申請書類を準備して下さるようお願い申し上げます。

また、胃管癌に対する手術や大動脈ステント後の大動脈-食道瘻に対する手術など一部対象術式を挙げていますのでホームページの最新の施行細則をご確認下さい。

食道外科専門医は、専門医制度の3階部分に相当し、技術と共に食道外科に関する経験と知識を全て総合的に評価する他に例を見ない専門医資格です。食道外科に携わる先生におかれましては是非、取得を目指して挑戦して頂ければと思います。より多くの先生が受験されますことを期待しています。

## 〔プログラム検討委員会〕

### 第74回日本食道学会プログラムアンケート報告

委員長 河野 浩二(福島県立医科大学 消化管外科学講座)

2020年12月10日～11日、徳島市で現地開催+Web配信というHybrid形式で開催されました第74回日本食道学会学術集会に関しまして、開催形式やプログラムに関するアンケートを実施いたしました。從来までは紙ベースで評議員を対象として実施しておりましたが、今回からGoogleフォームを用い、会員全員を対象に、学会後1か月間アンケートを行いました。委員会を代表いたしまして、会員の皆様のご協力に感謝するとともに、その結果概要を報告いたします(回答数309件、外科系78%、内科系14%)。

1. 第74回のHybrid開催(現地+Web開催)について

概ね満足62%、許容できる34%と、Covid-19の状況下での今回の開催形式に関して、会員の満足度は高かったです。特に、「効率な開催形式である」「終了後にも配信で見える」などのメリットがあげられていました。ただ、Webでの動画配信の画質に問題があるという意見が複数ありました。

2. Covid-19が収束した場合、今後の食道学会の開催形式は?

Hybrid形式の希望が57%と多数を占め、コメントとして「遠方、勤務中からも参加できるし、議論は現地で活発に行える」があげられていました。一方、例年の現地開催のみの希望も39%あり、Hybridと合わせ、現地重視の傾向がみられました。

3. 完全Web配信となった教育セミナーについて

概ね満足66%、許容できる32%と満足度は高く、来年からもWeb配信を望む意見が多数ありました。

4. 教育セミナーを前日に行い(第74回は完全Web)、会期が2日間という枠組みについて

「賛成」「どちらでも良い」が85%、「反対」が13%ありました。前回の教育セミナーはWebを希望する意見が多いものの、「学会会期に連続することで参加しやすい」といった意見を反映していると思われます。反対の理由としては、教育セミナーを含めて2日間に収めてほしいというコメントが多かったです。

5. 「学会の英語化について」

英語セッションをプログラム全体の20%以下にすべきが62%、21-50%程度にすべきが34%と、英語化を一部のセッション(上級演題、国際セッションなど)にとどめるという意見が大多数と言えます。その理由に関しては、討論の質が落ちることへの危惧が多数あげられております。また、討論に関しては日本語としても、スライドやポスターの発表媒体は英語化を許容するという意見が80%程度ありました。したがって、完全英語化には賛成できないが、英語化への流れを容認しつつあるといった現状と思います。

6. 「評価の高かった特別セッション」

評価の高い企画を5件選択いただいたところ、ビデオシンポが2件(シンポ1、シンポ2)と特別企画EC2が上位3企画となりました。3件とも外科手技を話題とした動画の演題であり、関心が高いと言えます。その他上位となたのは、横断的領域の内容や新規性のあるセッションがありました。

今回は、コロナ禍でのHybrid形式を初めて経験した学術集会であり、かつ、初めて会員全員を対象としたWeb回答形式のアンケート調査がありました。紙ベースの評議員を対象とした従来までの形式よりも、はるかに広く意見を反映できる調査方式であり、今後も継続してまいります。学会の根本に関わる学術集会の開催形式、すなわち「現地開催のみ or Hybrid形式」の大命題に対して、2-3年の経過を積み重ね、広く議論を重ねることで、結論を出していきたいと思います。よく言われる、「コロナ禍を経験して、New normalを確立する」機会かもしれませんので、プログラム委員会で議論を行って参ります。会員の皆様の忌憚のないご意見、ご提案をお待ちしております。

## 〔研究推進委員会〕

### 2021年度日本食道学会研究課題について

委員長 掛地 吉弘(神戸大学 食道胃腸外科)

研究推進委員会は2015年度に新設され、2020年度までの6年間に13課題が食道学会において承認されて全国規模の研究が行われています(食道学会ホームページの研究活動をご参照下さい)。昨年の第74回学術集会(徳島)で1課題の成果が発表されました。本年9月の第75回学術集会(東京)でも、下記の課題の成果が発表される予定です。

#### Jackhammer食道に関する全国実態調査

保坂 浩子 先生(群馬大学 消化器・肝臓内科)

岩切 勝彦 先生(日本医科大学 消化器内科学)

本年度も<2021年度の研究課題の公募>を行いました。本年は7課題の応募がありました。計画の科学性、実現可能性、学会主導として行う妥当性などを研究推進委員会で審査をした結果、下記の2課題を選出し理事会でも承認されました。応募課題は全て優れたものでしたが、調査に協力して頂く施設の負担を考えて採用は2課題としました。

1. 長期予後からみた頸部食道癌におけるリンパ節郭清効果に関する研究  
村上 健太郎 先生(千葉大学 先端応用外科)
2. 食道扁平上皮癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の使用実態調査  
竹内 裕也 先生(浜松医科大学医学部 外科学第二講座)

本活動は7年目に入り、更なる研究活動の向上と充実が求められます。「食道学会が主導して世界に情報を発信する」という目標の下に学会と会員が協力してより良い研究が成されるように、委員会も全力を尽くします。会員の皆様からの多くのご提案、ご意見を頂戴しながら進めて参ります。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

#### 〔総務委員会〕

#### 会員マイページ導入について

委員長 竹内 裕也(浜松医科大学 外科学第二講座)

2021年5月より日本食道学会では、学会ホームページ上に会員マイページ(会員管理システム)を導入いたしました。会員マイページでは、会員情報や年会費納入状況、食道科認定医/食道外科専門医の資格取得状況および有効期間、教育セミナーの受講歴を確認できます。また年会費納入は原則オンライン決済となりました。

日本食道学会では、留学や家庭の事情、健康上の理由などで、休会を希望する会員に休会制度、復会制度を新たに設けました。また休会の届出なく会費を連続して2年間納入されないと自動退会となります。

詳細は学会ホームページでご確認ください。今後も会員サービス向上を目指してまいりますので宜しくお願い申し上げます。

### 会告：第77回日本食道学会学術集会

#### 第77回日本食道学会学術集会の開催にあたって



近畿大学医学部  
外科学教室上部消化管部門

教授 安田 卓司

この度は第77回日本食道学会学術集会会長を拝命し、大変光栄に存じます。現在、2023年6月29日(木)・30日(金)の2日間、大阪国際会議場で開催すべく鋭意準備を始めているところです。第77回は、日本食道疾患研究会が日本食道学会に生まれ変わってから丁度20年目、つまり日本食道学会としては成人式を迎える節目の年にあたります。この20年間で医療技術は目覚ましく進歩し、世界を牽引する日本の食道外科はより精緻で、より安全で、より低侵襲な手術へと進化をしてきました。しかし根底には、先達からの飽くなき探求心と挑戦の精神が脈々と受け継がれており、伝統と先進の融合に加え、非外科的治療との連携でより高い根治性を目指した集学的治療へと発展を遂げてきています。本会ではこの20年間の日本食道学会の歩みを振り返りつつ、次の20年に向けて我々が克服すべき目標を明確にして新たなスタートを切ることができればと考えています。

ただ、現在まだまだ covid-19 の感染は鎮静化の兆しも見えません。ただ、ワクチン接種が進めば、来年から少しずつ日常が戻ってくるのではと期待しています。2023年には通常開催ができる信じて、日本食道学会20周年記念と共に人類の covid-19 感染症克服の勝利宣言も合わせてお祝いできればと考えています。多くの先生が全国から大阪に集まって関西風に“こってり”と議論し、楽しく酒を飲み交わすことができることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 2021年以降の学術集会のご案内

#### ◆ 第75回日本食道学会学術集会

会長：岩切 勝彦(日本医科大学 消化器内科学)

会期：2021年9月23日(木)～9月24日(金)

会場：ヒルトン東京お台場

#### ◆ 第76回日本食道学会学術集会

会長：島田 英昭(東邦大学大学院

消化器外科学講座・臨床腫瘍学講座)

会期：2022年9月25日(日)～26日(月)

会場：京王プラザホテル

#### ◆ 第77回日本食道学会学術集会

会長：安田 卓司(近畿大学医学部

外科学教室上部消化管部門)

会期：2023年6月29日(木)～30日(金)

会場：大阪国際会議場

#### \*編集後記

みなさま、2021年も半年たち、With COIVD-19の生活にも慣れてきつつありますが、ワクチンがゲームチェンジャーとなり、少しでも以前の生活に戻れることを期待しています。リモートなどで、便利になったと同時に、実際に会って話し合うことの重要性も改めて感じている今日この頃です。9月に開催される学術集会は、岩切先生から、内科的な視点から多様なセッションが用意されていると伺っており、個人的にも非常に楽しみにしています。多様性という点では、食道がん啓発月間である4月に行われた“食がんリングス”という患者会主催の会を、食道学会として後援させていただきました。コロナ禍でお忙しい中、土岐理事長にもWEB参加いただきました。患者参画(PPI)が叫ばれる昨今ですが、食道がんは今まであまり患者会活動という行わされてこなかったという歴史がありますが、今後は、患者会からも意見を集めつつ、診療を考えていく時代になってきたを感じています。

広報委員会	委員長	加藤 健
	委 員	本山 悟、竹内 裕也、神宮 啓一
		村上健太郎、有馬美和子、出江 洋介
		熊谷 洋一、奈良 智之、白川 靖博
		山崎 誠、山辺 知樹、大平 雅一
		浜本 康夫

#### 特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012

東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階

電話 03-6456-1339 FAX 03-6658-4233

e-mail: office@esophagus.jp

ホームページ <http://www.esophagus.jp/>